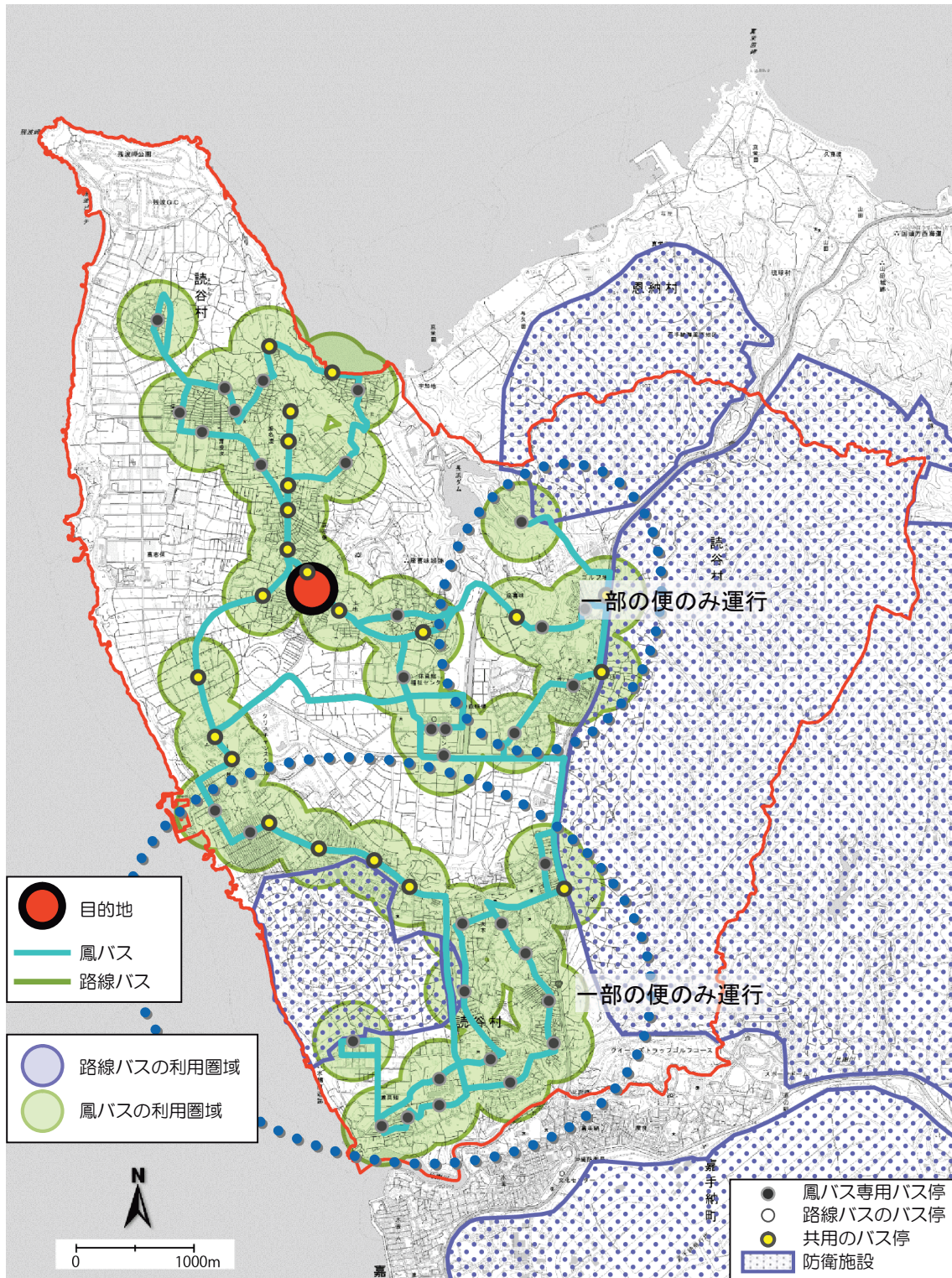


■ 村立図書館へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス：平日）



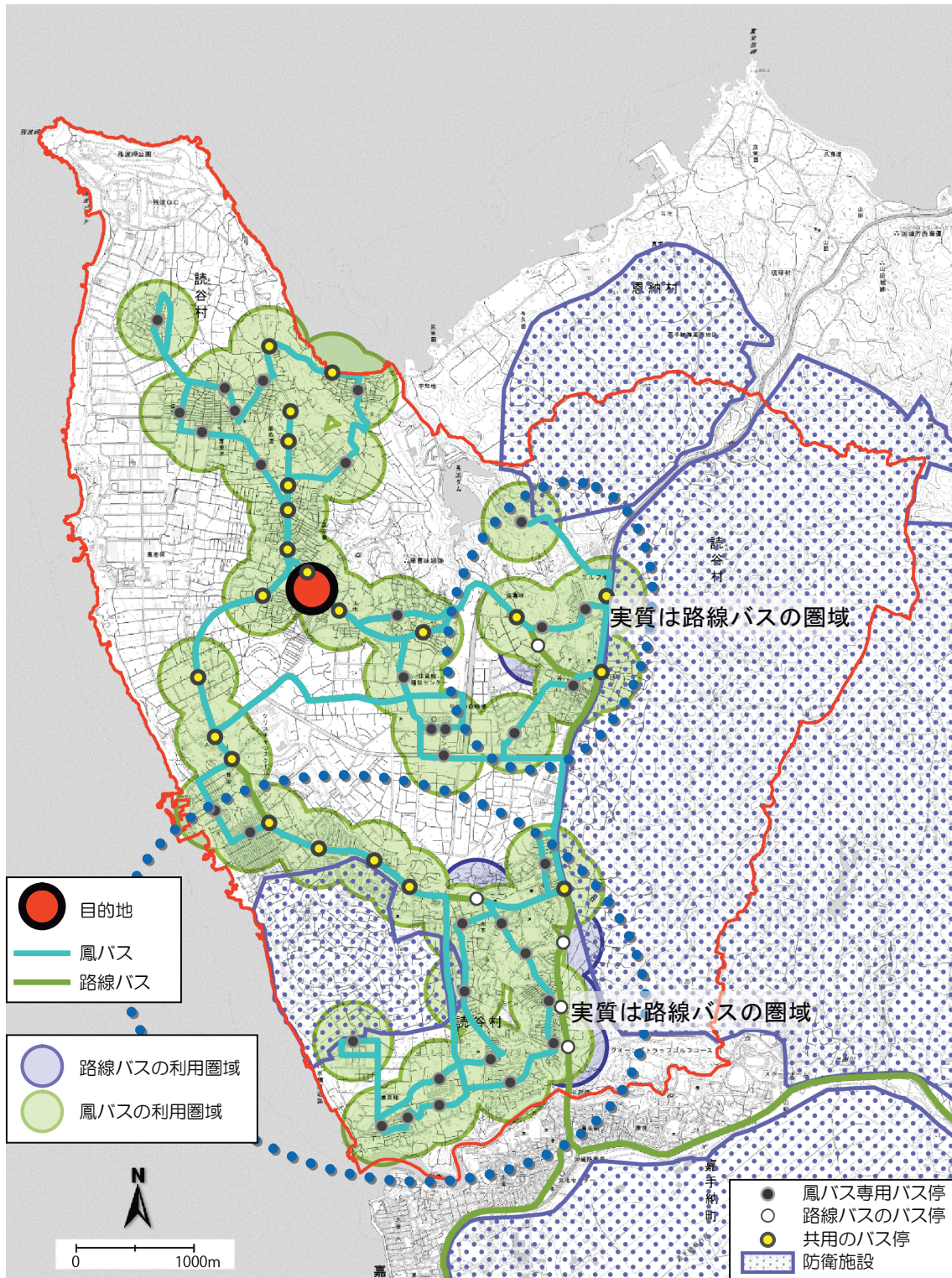
村立図書館については、「旧役場前」バス停が最寄りとなるが、「高志保入口」の利用圏域にも含まれているため、両方のバス停からアクセス可能と判断している。

鳳バスについては、平日の3系統のうち、「北ルート」の経由地になっている。上図では、「東西・南ルート（逆）」と「東西・南ルート（正）」の始発便・交代便・最終便があるため、南部も利用圏域となっているが、実際は「北ルート」による利用に限定される。

なお、火曜と祝日が図書館の休館日である。



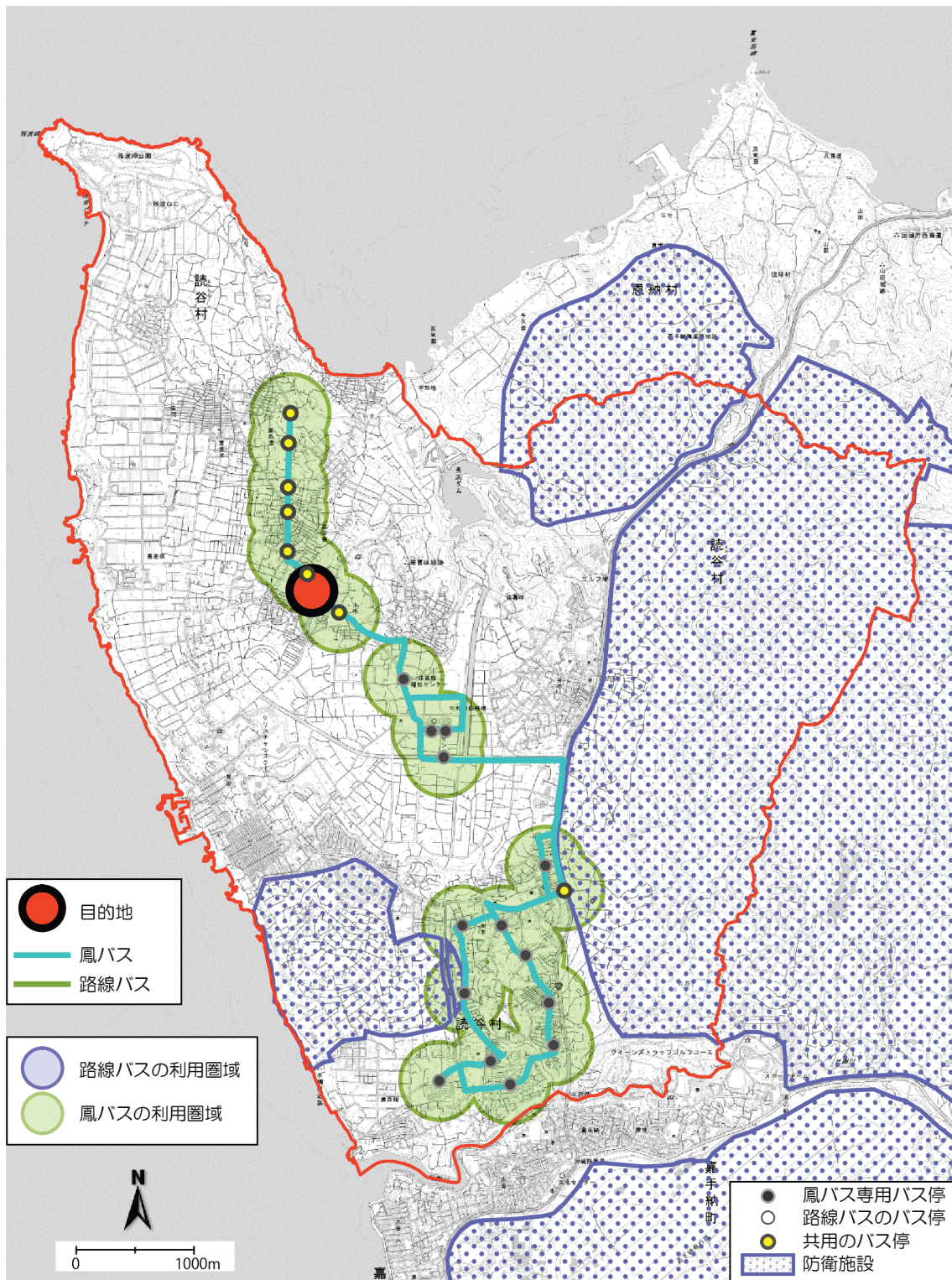
■ 村立図書館へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス+路線バス：平日）



前頁のように、図上の鳳バスによる利用圏域は広いものの、実質は北ルート限定となっている。しかし、路線バスの「高志保入口」バス停は、高頻度の「読谷バスターミナル～楚辺経由嘉手納方面」区間に位置しており、喜名方面への分岐点ともなっているため、路線バスでのアクセスがしやすくなっている。



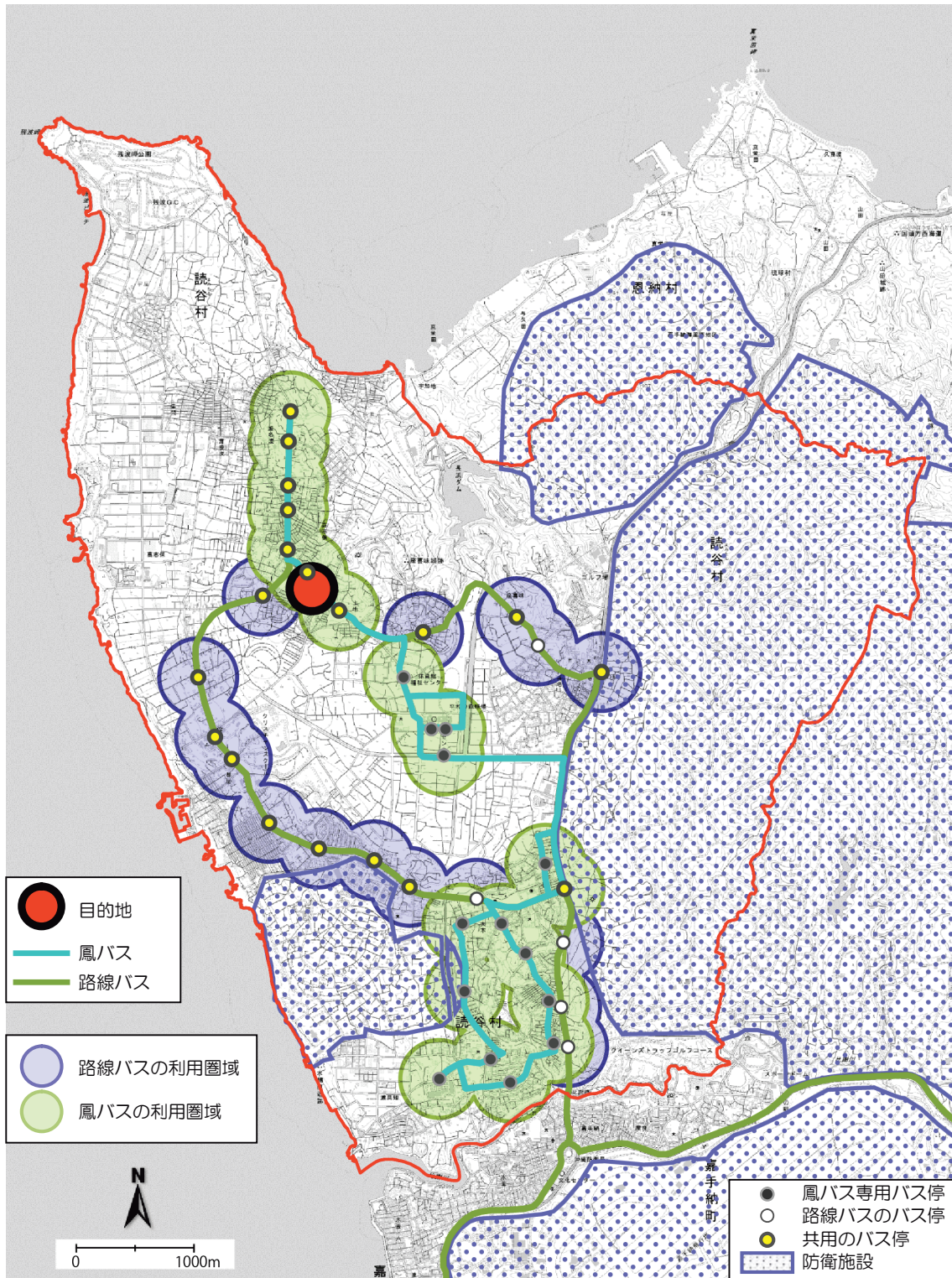
■ 村立図書館へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス：土休日）



土休日の鳳バスは1系統のみであるが、「旧役場前」バス停も経由地となっている。  
 県道6号以南の利用者にとっては、土休日のみ直行便が運行されているということになり、  
 本数は多くないものの、平日よりも利便性が高いといえる。



■ 村立図書館へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス+路線バス：土休日）

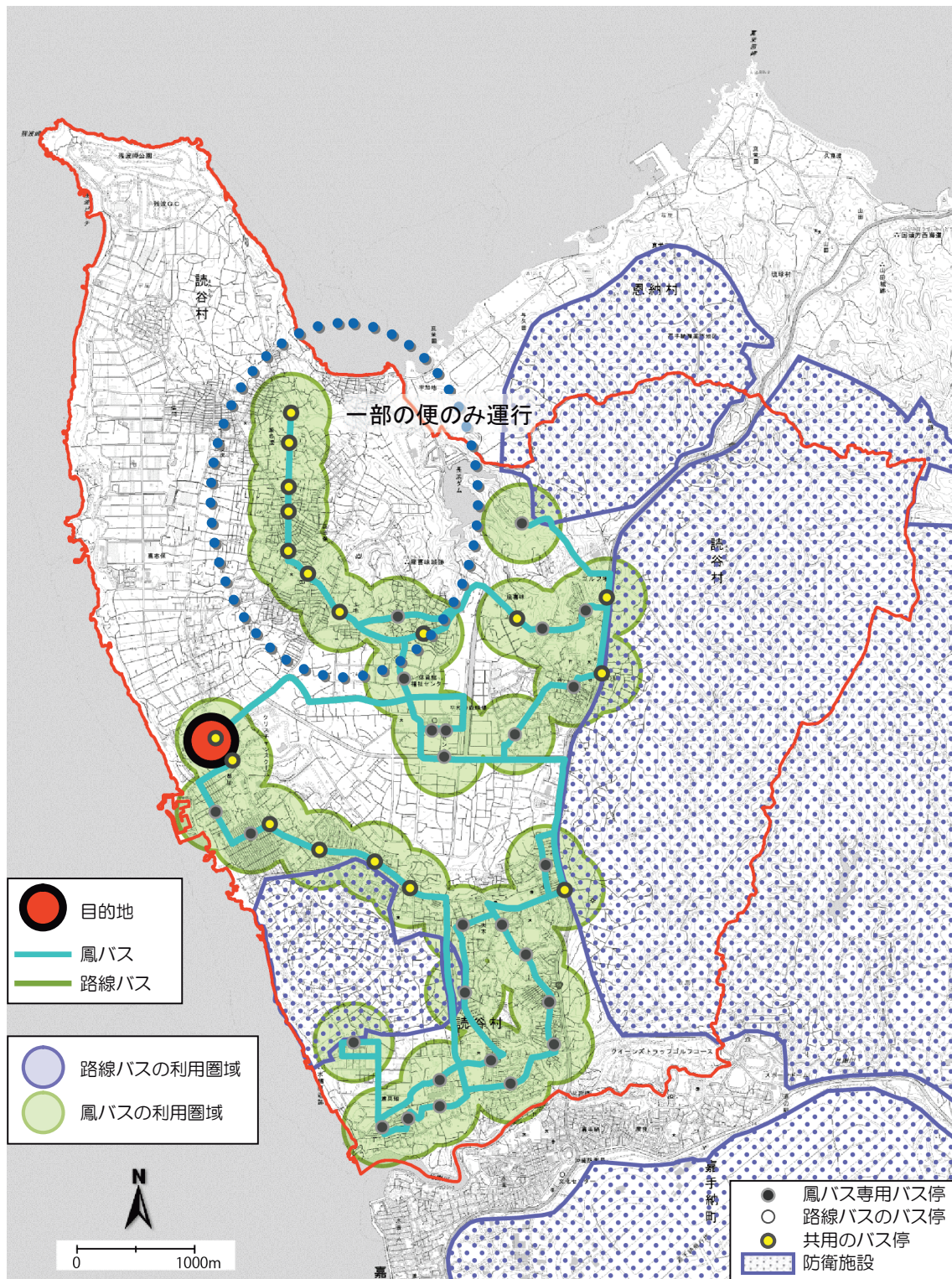


村立図書館の場合も、「高志保入口」であれば、路線バスでカバーされるエリアが広い。ただし、土休日の場合、路線バス沿線の住民にとっては、運行本数の減少による利便性の低下、鳳バス北ルート沿線の一部住民にとっては、路線がないことによる大幅な利便性低下が発生する。

一方、県道6号以南の利用者にとっては、土休日のみ直行便が運行されているということになり、利便性が向上している。



■村診療所へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス：平日）

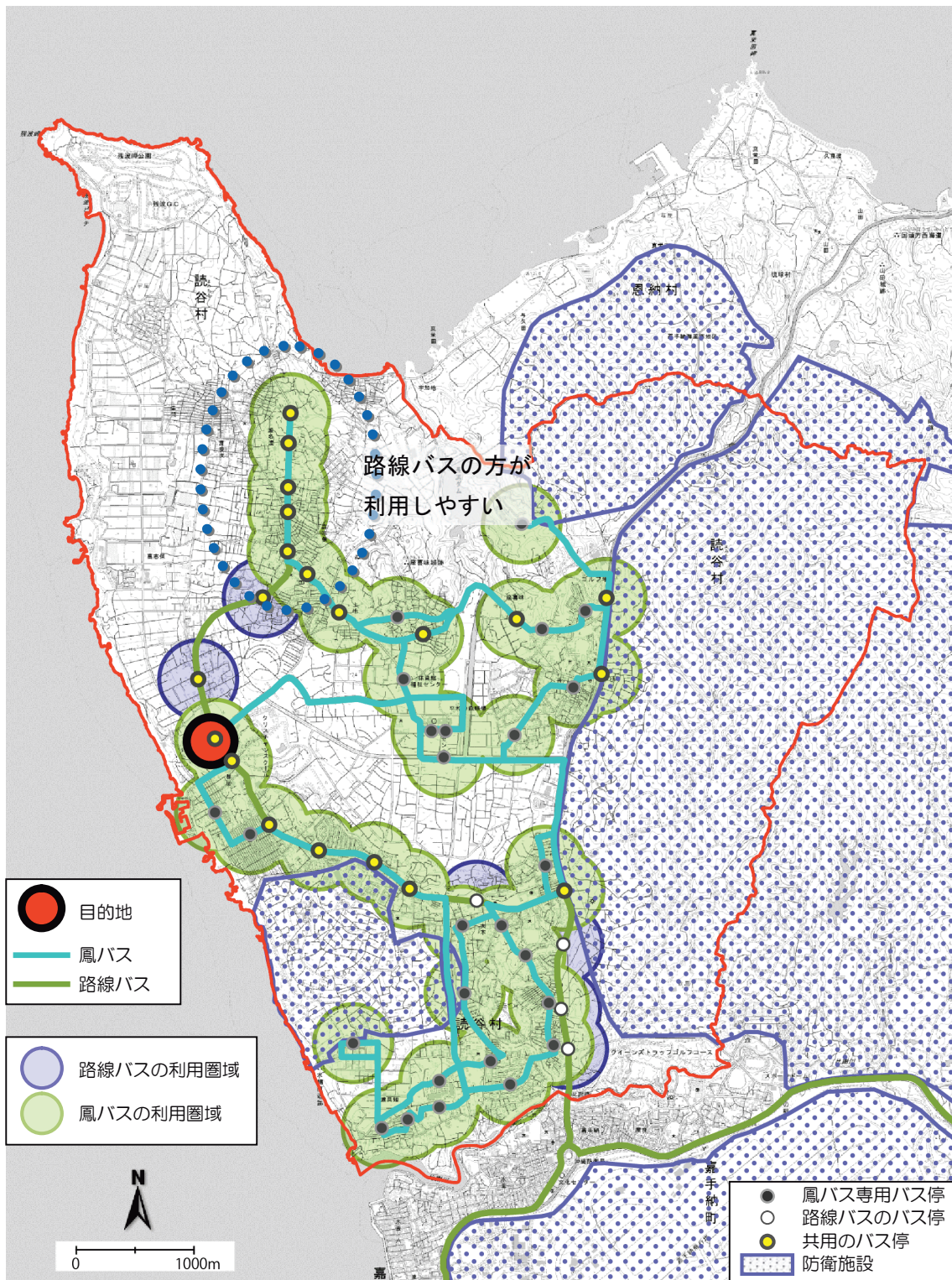


村診療所については、平日の鳳バス3系統のうち、「東西・南ルート（逆）」と「東西・南ルート（正）」の2系統が経由している。

なお、上図では村役場以北も利用圏域が続いているが、始発便・交代便・最終便のみの運行であり、路線バスを利用の方が現実的である。



■村診療所へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス+路線バス：平日）

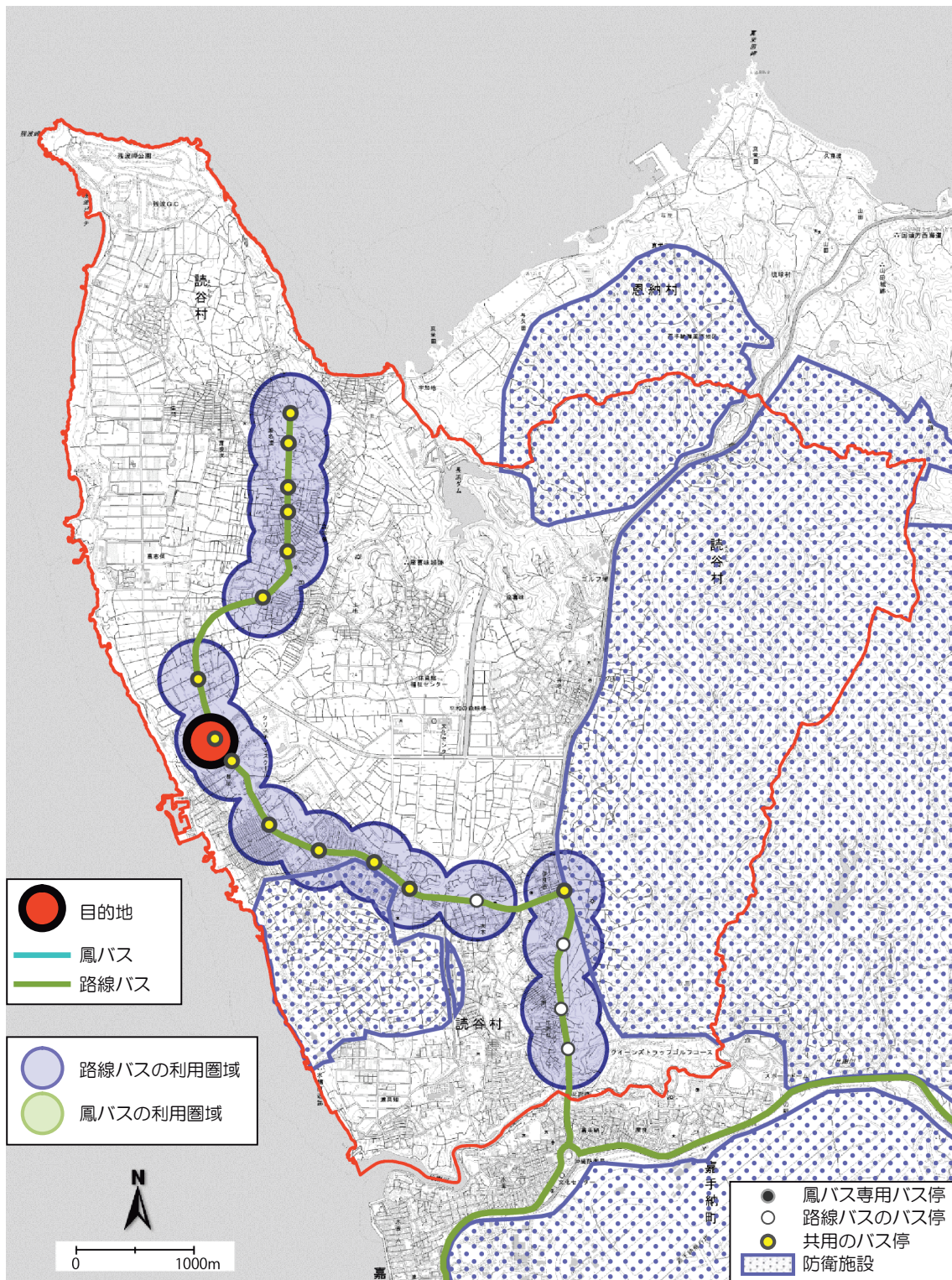


「診療所前」バス停が、高頻度の「読谷バスターミナル～楚辺経由嘉手納方面」区間に位置しているため、路線バスでのアクセスは良好である。

一方、鳳バスの北ルートは診療所の近くを通るものの、バス停が設置されていないため、北ルート沿線からの利用は乗り継ぎが必要となっている。



■村診療所へのアクセス状況と公共交通空白地域（鳳バス+路線バス：土休日）

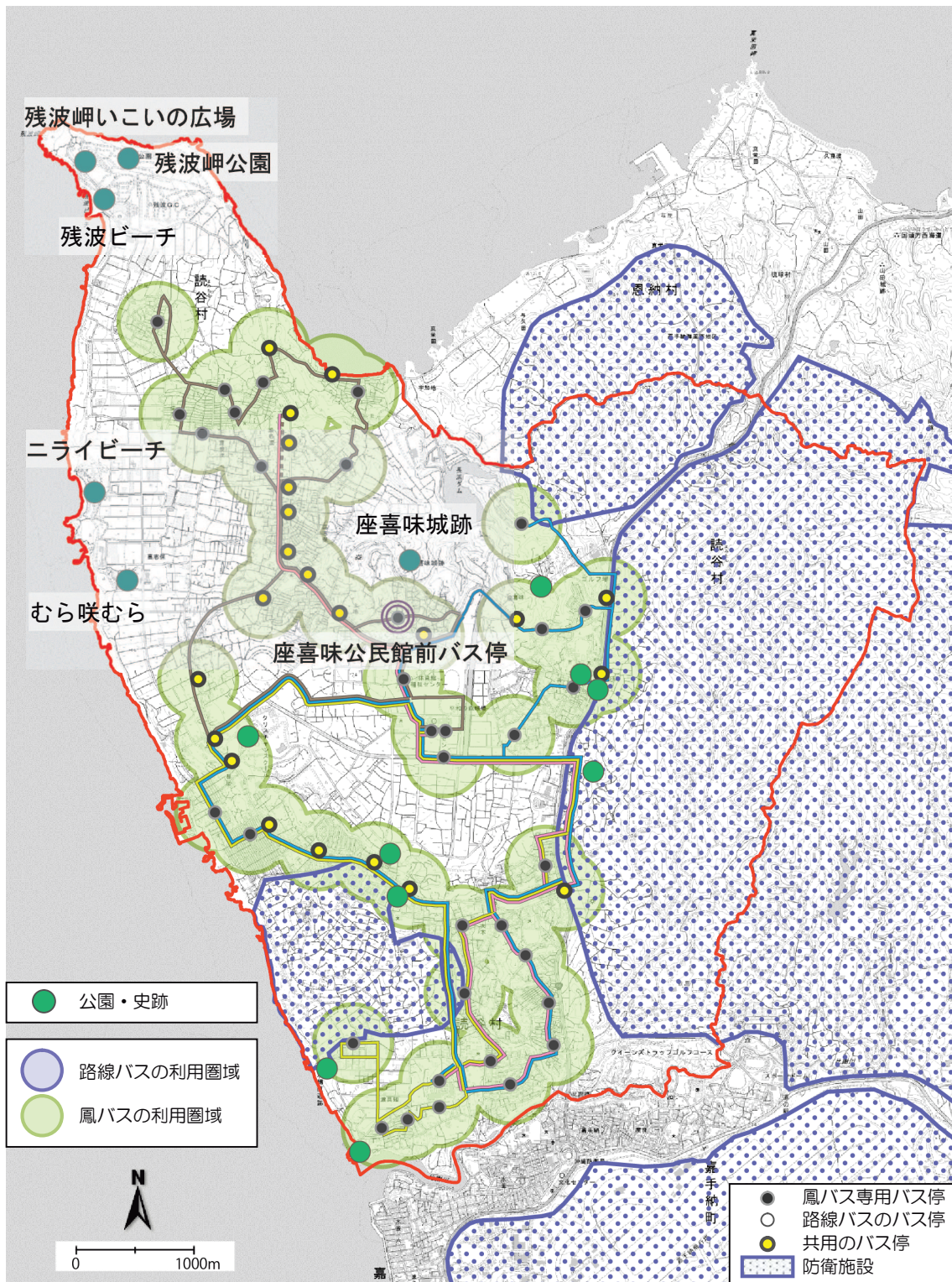


村診療所は土曜日が午後休診、日曜日が休みとなっている。このため、平日の利便性が特に重要であると考えられる。

鳳バスの「休日南北ルート」は村診療所を経由しないため、土休日のバス便は路線バスのみとなる。路線バスは、平日よりも運行本数が少なくなっている。



■観光施設の立地と公共交通空白地域（鳳バス）

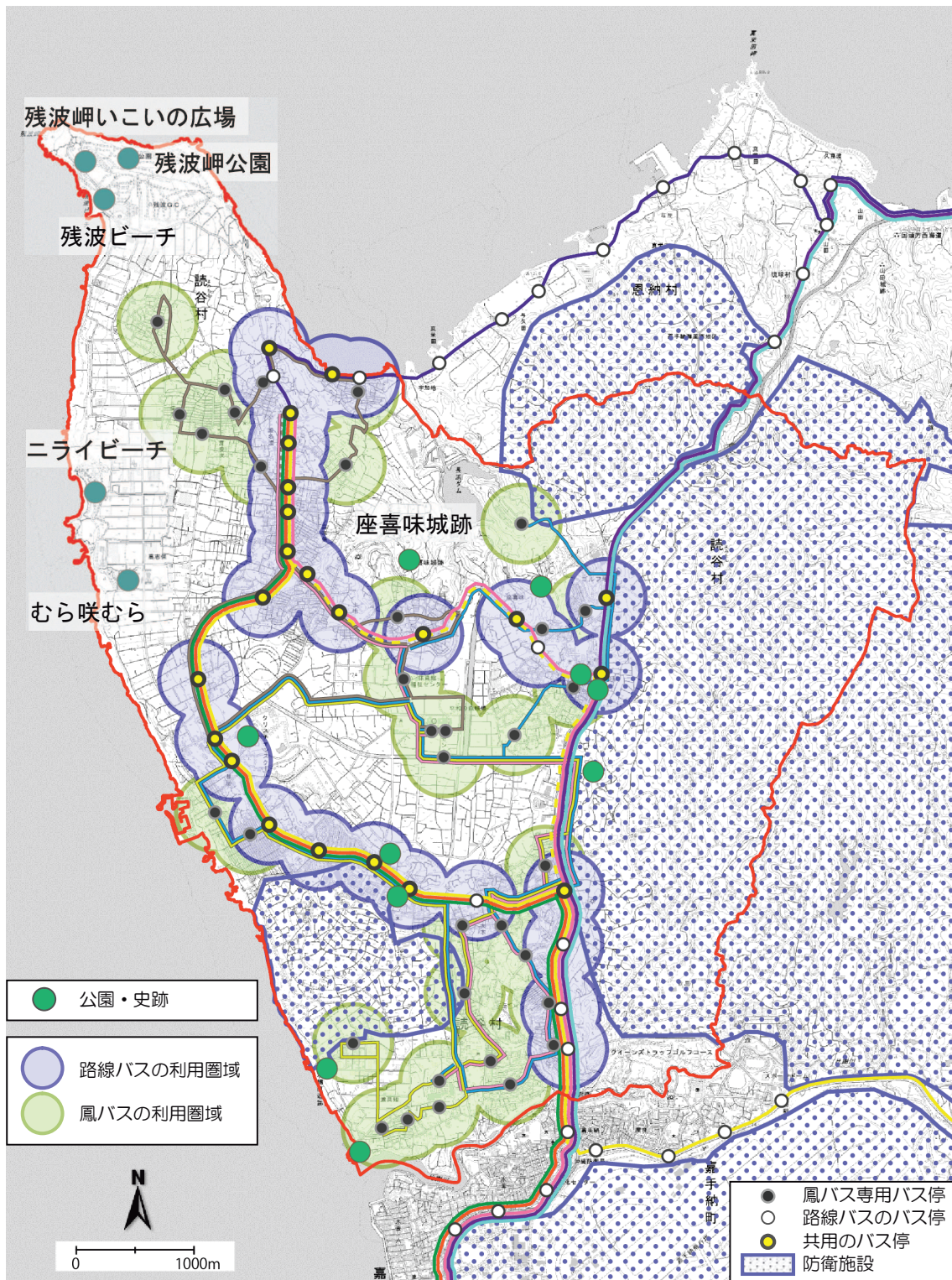


鳳バスの沿線にも公園や史跡が分布しているものの、集客力のある施設は、大半が鳳バスの利用圏域外となっている。

鳳バスのバス停に比較的近いものとしては、座喜味城跡（最寄り「座喜味公民館前」）がある。ただし、平日のみの運行となっている。一方、残波岬周辺やニライビーチ、むら咲むらについては、バス停から大きく離れており、鳳バスを利用した観光はしにくいといえる。



■観光施設の立地と公共交通空白地域（鳳バス+路線バス）



鳳バスに加え、路線バスの利用圏域を重ねた場合でも、集客力のある施設がバスの利用圏域外という状況は変わらない。

現在の公共交通ネットワークのまま観光利用を促進することは、かなり難しいと考えられる。公共交通による観光の利便性向上を図るためには、鳳バスの路線変更・拡大で観光施設をカバーするか、別の交通手段を導入するなどの検討が必要である。